

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500207	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	株式会社 愛総合福祉		
事業所名	愛・グループホーム川崎野川		
所在地	(216-0001) 神奈川県川崎市宮前区野川986		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18 名	
		ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成29年7月20日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅で生活している時と同じようなリズム、入居者様とスタッフが一緒にゆっくりと過ごし笑い声が絶えない時間を作るよう心がけています。また、ご家族様が望む場合は看取りまで対応し、住み慣れた場所で最後まで生活できるよう支えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年3月1日	評価機関 評価決定日	平成29年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東急田園都市線「鷺沼駅」または「梶ヶ谷駅」からバスで13分、「山下」バス停下車徒歩3分の住宅地にあります。同じ敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、運営推進会議、祭りなどは連携しながら運営しています。本社は東京都にあり60事業所を展開する株式会社です。

<優れている点>

管理者は昨年6月に着任し、勤務体制を見直すとともに、職員の活動やアイデアを実行しやすい環境作りに取り組んでいます。事業所会議およびユニット会議の充実、リーダー制、職員の作業分担の見直し、外部評価調査票の自己評価実施状況記載への職員参加、利用者に関する情報の共有化に努めています。職員で作った目標は、「お客さまとゆっくりと過ごす時間を作ります」「否定しません」「言葉で拘束しません」という解りやすい表現で、心のふれあいを第一に、利用者の尊厳を大切にしています。

<工夫点>

情報管理をパソコンによる保管システムに変更し、本社、管理者とリーダークラス、職員共通の3つの階層別データに分類しています。また、事業所内で閲覧や処理ができるよう情報の共有化を行っています。職員が必要な時に読めるように、会議録や研修資料は個人ファイルに保管しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛・グループホーム川崎野川
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念・事業所目標を毎朝の朝礼で唱和し、スタッフへ企業理念のうち、1つは自信を持って実践していると言えるようにするよう伝えている。	法人の社是と5つの企業理念、さらに「お客さまとゆっくりと過ごす時間を作ります」などを目標としています。毎朝引継ぎ時に唱和し、各人の合言葉として日々の活動に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外出時に地域の方に会った際は必ず挨拶をするようにしている。	事業所の夏祭りでは近隣にチラシを配布し、参加を呼び掛け、小学生や家族が沢山参加しています。地域の夏祭りには利用者が参加し、楽しんでいます。近隣の保育園児が定期的に来訪し、遊戯を見せたり利用者で交流しています。	自治会に入会し、地域に根差した事業所として、地域住民が気軽に事業所を訪問し、利用者で交流する機会を作ることも期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏祭りに、認知症相談会を開催。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で事業所の取組み等を報告している。お客様への対応の仕方、他の事業所での取組みを参考にし、当事業所でも取り入れている。	2ヶ月ごとに、隣接するコミュニティホームと合同で時間を区切って開催しています。2ヶ所の地域包括支援センター職員、デンタルクリニックの職員が参加しています。利用者の生活、入退去状況の報告、家族との意見交換を行っています。	地元とのつながりをさらに深めるよう、自治会の関係者や民生委員などの出席が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所内でのトラブル（未遂）があった場合は必ず報告をしている。	市役所や区役所に事故報告をしたり、苦情についての相談や意見交換を行っています。警察署や消防署には徘徊対応の協力依頼をしています。研修や講演会のチラシを区役所から持ち帰り、職員の参加を促しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修、事業所会議、朝礼等で事例を出しながら「身体拘束をしないケア」の理解・周知に取り組んでいる。	事業所では「否定しません」「言葉で拘束しません」を日々の目標にしています。接遇方法についての研修を最近2回実施し、欠席者には議事録と資料を配布して知識を共有しています。外部者侵入に備えて玄関は施錠していますが、ユニットのドアは簡単にロックが外せるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所会議、研修の実施。ホーム内で、虐待の疑いがあった場合は、スタッフへ周知するとともに、行政・ご家族への報告を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があっても、話し合う等は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、管理者が行っている。その際は、契約書、重要事項説明書を説明した上で、質問・不明点を確認しながら進めている。不明点があれば、後日連絡を下さいと一言添えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。ご家族から意見があった場合は、速やかに計画作成担当者やリーダー等と情報を共有し、朝礼等を通じてスタッフに周知するようにしている。	家族に「野川便り」を渡す時、また、利用者の預り金清算のために家族が事業所を訪問した時などに意見や要望・苦情を聞いています。家族から得た情報は全職員に周知し、改善できることは即実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談の実施。事業所会議などで意見を聞き良いものは取り入れている。	勤務体制の変更に合わせたリーダー制、希望に合わせた勤務時間、職員別役割分担など、職員の意見やアイデアを実行しやすくしています。パソコン管理システムで情報の共有化を行い、職員も簡単にアクセスできるように改善しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務時間が終了したら速やかに退勤するよう声かけ。資格給・キャリアアップ制度・目標達成時のインセンティブ等で労働意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、事業所内での研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は毎月、グループ定例会議に参加し、他事業所の様子を確認し、良い所は取り入れるよう努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご本人に会った上で入居前カンファレンスを実施している。入居後は本人の希望や身体状況を細かく確認し、スタッフ間の情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族・本人にお会いして、家族の希望・本人の希望を把握する。その上で、ご家族の希望や不安点を解消するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	定期的カンファレンスを開催し、計画が現状と乖離していないかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事は自分で行ってもらい、スタッフは安全に生活が出来るよう見守る事を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の様子を報告し、通院など家族が協力できる部分は協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能であれば、定期的に自宅へ戻り、一緒に食事や外出を楽しんで頂き、家族と過ごす時間を作って頂けるようにしている。	家族や友人が訪ねてきた時は、会話が弾むよう、個室に湯茶を出して支援しています。電話の取次ぎを行っています。隣接するコミュニティホームに馴染みの人が参加している場合に、利用者を連れて行く支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人が好きの方、話好きの方と座る場所を工夫。輪に入れない方へは、スタッフが声を掛けて周りの方とコミュニケーションが出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約していた方のご主人とメールで近況報告をする等、要望があれば相談・支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのように過ごしたいか、本人・関わっているスタッフに確認し、カンファレンス等で共有している。	フェイスシートには本人の思いや意向、生活歴、家族の想いをまとめています。湯茶の時間や入浴時、散歩の時、日々のかかわりの中で意向を把握し、個人別のケア記録として変化の有無を確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の実調で把握に努め、入居後もご本人・ご家族からヒアリングし情報の共有・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活パターンを把握し、見守り・記録で情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの見直しは6ヶ月ごとです。日々の様子を申し送りノートで引き継ぎ、変化があるごとにモニタリングをしています。さらに施設介護支援経過としてまとめ、内科医の意見や家族の意向を加えて、ケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や状況の変化などを記録して共有、お客様にとってより良い方法で支援できるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院が困難な方には往診医（定期往診医以外）を探すなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身近なところだと、一緒にスーパーに買い物に行く等をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医との連携は密にしつつ、往診医では対応が難しければ、地域の病院へ通院している。	内科医は月2回、歯科医は週1回往診し、歯科衛生士が口腔ケアを行っています。看護師と薬剤師は週1回管理指導をしています。皮膚科や眼科などの専門医受診は家族の同行ですが、緊急時は事業所で対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々気になった事は管理日報に記入し、週一回の訪問看護時に報告・相談している。緊急を要する場合はすぐに電話で報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の状況に変化が見られれば直ぐに往診医へ連絡し、早期入・早期退院が出来るように動いている。入院した際は、退院時期を把握する事で退院後にスムーズにホームに戻れるように対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の希望を把握した上で、ご家族・主治医・管理者等で、今後の関わり方を話し合う。看取りに入った後も、ご家族の気持ちは常に確認している。常に、往診医・看護師・薬剤師には相談・連絡が出来るように体制を整えている。	重度化した場合は、利用者・家族と話し合い、希望に添った看取りに努めています。看取りの経験もあります。医師・看護師・薬剤師との連携体制を構築しています。全ての職員がいつでも対応できるよう外部講師による研修を計画しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	明らかにおかしいと感じた場合は、60秒以内に救急車を呼ぶようにしている。それ以外でも緊急時対応のマニュアルに沿って対応できるようにしている。応急手当はスタッフによって差があるので、全員が同じレベルで対応が出来るようにしていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	研修の実施。防災マップを各フロアに貼っている。避難方法を全職員が身に付けられる様に定期的に研修を実施していく。	年2回火災訓練と避難訓練を実施しています。夜間火災時の避難誘導と災害時の一時避難所の対応の訓練は行われていません。水・保存食3日分、防寒具、簡易トイレなど16種類の備蓄品を備え、数量と賞味期限の確認を行っています。	行事や火災避難訓練のお知らせを町内会や地域住民に配布し、近隣住民も参加しやすい避難訓練の実施や、災害時に駆けつけてくれる地域住民との協力関係を構築される事が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「恥ずかしい」と思わせてしまわないよう心掛けている。	「真心をこめて介護をします」の理念にふさわしいケアについて職員で考え、「ゆっくり過ごす時間を作る、否定しません、言葉で拘束しません」の3つの目標を作り、毎日唱和しています。接遇方法を学び、年長者を敬う支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一方的な介護ではなく、ご本人の意思を尊重しながら介助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の意思を尊重しながら介助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援できている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	全員が問題なく食事が出来るように、食事の大きさや形を考えながら食事は提供している。食器拭きやテーブル拭きをしていただく。	いろいろな野菜を使った料理を和食器に盛りつけ、色や香りなど目でも楽しめる工夫をしています。健康体操や食前の口腔体操など、嚥下を助け、食欲の湧く支援を行っています。お好み焼き作りなど職員と一緒に調理に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人の食事量や水分量は記録で把握し、無理のないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛け、見守りをそれぞれのお客様に合った声かけをして対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレへ行く時間のパターンを把握し、声かけを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを全職員で共有し、個別の排泄支援に繋がっています。車椅子対応トイレ1ヶ所、普通トイレ3ヶ所が設置されています。排泄表や生活リズムに合わせて声掛けし、オムツからリハビリパンツへの自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂取したり身体を動かす等をして便秘の予防に努めているがスタッフの便秘に対する理解度がまだまだであるので、研修等で周知していく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴が出来る時間（他のお客様の介助に支障がない時間）の中で、なるべく希望に沿えるよう努めている。	週2回の入浴です。毎日入浴する利用者もいます。広めの家族風呂でゆっくり湯につかり、対話から利用者の思いを聞くように努めています。入浴拒否をする人には無理強いせず、タイミングを見て声掛けし、入浴に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床時間を強制せずに、それぞれの生活リズムに合わせてゆっくり休み、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情やお薬手帳を利用し、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	話し好きな方が多いので一緒に話をする時間を多く取っている。楽しみが無い方に対しては支援が難しい時がある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所を散歩するなどして外出の機会を作っている。自分の足で歩き続ける事が難しい場合は車いすを利用し外出の支援をしている。	散歩希望者は建物裏の遊歩道を9時から10時の間に歩いています。初詣は全員が参れるように、午前午後に分けて車で送迎しています。花壇でキャベツやじゃが芋、トマトなどを作り、外気浴を楽しんだり近隣の花見にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭に関しては、トラブルを防ぐために金庫で一括で管理をしている。お客様から希望があれば、ご家族と相談した上で少額のお小遣いを持つことも可能。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を希望する場合は、自ら掛ける事は可能。代理で電話を掛ける事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内温度・湿度の調整を行う。臭いが室内に残らないように配慮する。トイレの掃除・換気の徹底。フロア内に飾り付けをすることで明るい空間を作るように心がけている。	玄関には利用者の雛人形を飾り、季節感を出しています。居間には、利用者や職員で作った桜やイチジクの葉の作品を貼り、天井には手毬のような色紙作品を吊るしています。窓際にソファを置いて家庭的な雰囲気を作ったり、テーブルの向きを変えて気分転換の工夫をしたりしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアで、気の合う方同士が会話を楽しむことが出来たり、静かにテレビを見て過ごしたり等、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの物を持参していただくように、話をしている。	エアコン、クローゼット、洗面化粧台が備え付けです。仏壇、テレビ、趣味の品や使い慣れた家具を持ち込み、快適に過ごしています。安全面から窓に15cmだけ開くウインドロックを設置し、外気の薫りを感じられる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	障害物になりそうなものは、出来るだけフロアには置かず、動線を確認する。いつも同じ場所に同じものがある事でお客様が混乱なく生活出来るように配慮している。		

事業所名	愛・グループホーム川崎野川
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念・事業所目標を毎朝の朝礼で唱和し、スタッフへ企業理念のうち、1つは自信を持って実践していると言えるようにするよう伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外出時に地域の方に出会った際は必ず挨拶をするようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏祭りに、認知症相談会を開催。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で事業所の取り組み等を報告している。お客様への対応の仕方、他の事業所での取り組みを参考にし、当事業所でも取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所内でのトラブル（未遂）があった場合は必ず報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修、事業所会議、朝礼等で事例を出しながら「身体拘束をしないケア」の理解・周知に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所会議、研修の実施。ホーム内で、虐待の疑いがあった場合は、スタッフへ周知するとともに、行政・ご家族への報告を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があっても、話し合う等は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、管理者が行っている。その際は、契約書、重要事項説明書を説明した上で、質問・不明点を確認しながら進めている。不明点があれば、後日連絡を下さいと一言添えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。ご家族から意見があった場合は、速やかに計画作成担当者やリーダー等と情報を共有し、朝礼等を通じてスタッフに周知するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談の実施。事業所会議などで意見を聞き良いものは取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務時間が終了したら速やかに退勤するよう声かけ。資格給・キャリアアップ制度・目標達成時のインセンティブ等で労働意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、事業所内での研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は毎月、グループ定例会議に参加し、他事業所の様子を確認し、良い所は取り入れるよう努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご本人に会った上で入居前カンファレンスを実施している。入居後は本人の希望や身体状況を細かく確認し、スタッフ間の情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族・本人にお会いして、家族の希望・本人の希望を把握する。その上で、ご家族の希望や不安点を解消するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	定期的カンファレンスを開催し、計画が現状と乖離していないかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事は自分で行ってもらい、スタッフは安全に生活が出来るよう見守る事を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の様子を報告し、通院など家族が協力できる部分は協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能であれば、定期的に自宅へ戻り、一緒に食事や外出を楽しんで頂き、家族と過ごす時間を作って頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人が好きな方、話好きな方と座る場所を工夫。輪に入れない方へは、スタッフが声を掛けて周りの方とコミュニケーションが出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約していた方のご主人とメールで近況報告をする等、要望があれば相談・支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様から意向を聞き取る。日頃から状況・状態を観察し必要に応じてカンファレンスを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の実調で把握に努め、入居後もご本人・ご家族からヒアリングし情報の共有・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	管理日報、介護記録等を参照にして現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	朝礼等で情報の共有を行い、カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や申し送りを行い、必要に応じてカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院が困難な方には往診医（定期往診医以外）を探すなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身近なところだと、一緒にスーパーに買い物に行くようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族からの心配事、日々のケアにおいて出てきた疑問点などは往診時にDrに伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々気になった事は管理日報に記入し、週一回の訪問看護時に報告・相談している。緊急を要する場合はすぐに電話で報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の状況に変化が見られれば直ぐに往診医へ連絡し、早期入・早期退院が出来るように動いている。入院した際は、退院時期を把握する事で退院後にスムーズにホームに戻るように対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の希望を把握した上で、ご家族・主治医・管理者等で、今後の関わり方を話し合う。看取りに入った後も、ご家族の気持ちは常に確認している。常に、往診医・看護師・薬剤師には相談・連絡が出来るように体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	明らかにおかしいと感じた場合は、60秒以内に救急車を呼ぶようにしている。それ以外でも緊急時対応のマニュアルに沿って対応できるようにしている。応急手当はスタッフによって差があるので、全員が同じレベルで対応が出来るようにしていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	研修の実施。防災マップを各フロアに貼っている。避難方法を全職員が身に付けられる様に定期的に研修を実施していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄等の誘導時には、大きな声で「トイレ」や「おしっこ」等、言わないよう心掛ける。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一方的な介護ではなく、ご本人の意思を尊重しながら介助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースで過ごしていただけるよう努力はしているが、なかなか難しい面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みを把握し、季節感を感じられる様にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	全員が問題なく食事が出来るように、食事の大きさや形を考えながら食事は提供している。食器拭きやテーブル拭きをしていただく。楽しむという意味では、おやつ作りのアクティビティを取り入れる事で普段と違う食に対する楽しみが出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事に関しては食べ過ぎないように一日の記録を確認しながら調整している。水分は一日の摂取量に近づく様に声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間に応じて声掛けをしている。車椅子の方は2人対応し安全に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂取したり身体を動かす等をして便秘の予防に努めているがスタッフの便秘に対する理解度がまだまだであるので、研修等で周知していく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望やタイミングに合わせての入浴介助は出来ていない。予定を組んでスタッフの都合に合わせるような形となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の温度に配慮している。入床時間は、自立の方はほぼ本人に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情やお薬手帳で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食器拭き、洗濯物をたたむ等、できる事を行っていただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の業務に追われ実践が出来ていない。今後検討が必要。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭に関しては、トラブルを防ぐために金庫で一括で管理をしている。お客様から希望があれば、ご家族と相談した上で少額のお小遣いを持つことも可能。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を希望する場合は、自ら掛ける事は可能。代理で電話を掛ける事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内温度・湿度の調整を行う。臭いが室内に残らないように配慮する。トイレの掃除・換気の徹底。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアで、気の合う方が同士が会話を楽しむことが出来たり、静かにテレビを見て過ごしたり等、配慮している。相性の悪い方が横に並ばないように部屋のレイアウトを変更した事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの物を持参していただくように、話をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	障害物になりそうなものは、出来るだけフロアには置かず、動線を確認する。いつも同じ場所に同じものがある事でお客様が混乱なく生活出来るように配慮している。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 愛・グループホーム川崎野川

作成日： 平成 29年 7月 14日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	毎月研修を実施しているが全スタッフの底上げが上手くいかず、サービスの質にばらつきがある。	定期的な研修を欠かさず実施し、スタッフ1人1人が成長していける環境を作る。	定期的な研修の実施。スタッフが苦手に行っている部分を見つける。気づいたら個人的に研修の時間を作る。	12ヶ月
2	2	地域住民との交流を増やす。	地域に根差した事業所となる。	自治会へ加入する。地域住民が気軽に訪問できるよう、まずは見学会のような形で内覧をしていただく。	12ヶ月
3	24	これまでの生活歴を把握した上での援助を全スタッフが共有して行う。	全スタッフが1人1人の生活歴・暮らし方等、バックグラウンドを把握した上で援助が出来るようにする。	ご家族・ご本人から得た情報をスタッフ全員で共有し、「分かっているはず」では無く、「分かっている」と自信を持って介護が出来るようミーティングの時間を多く取る。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月